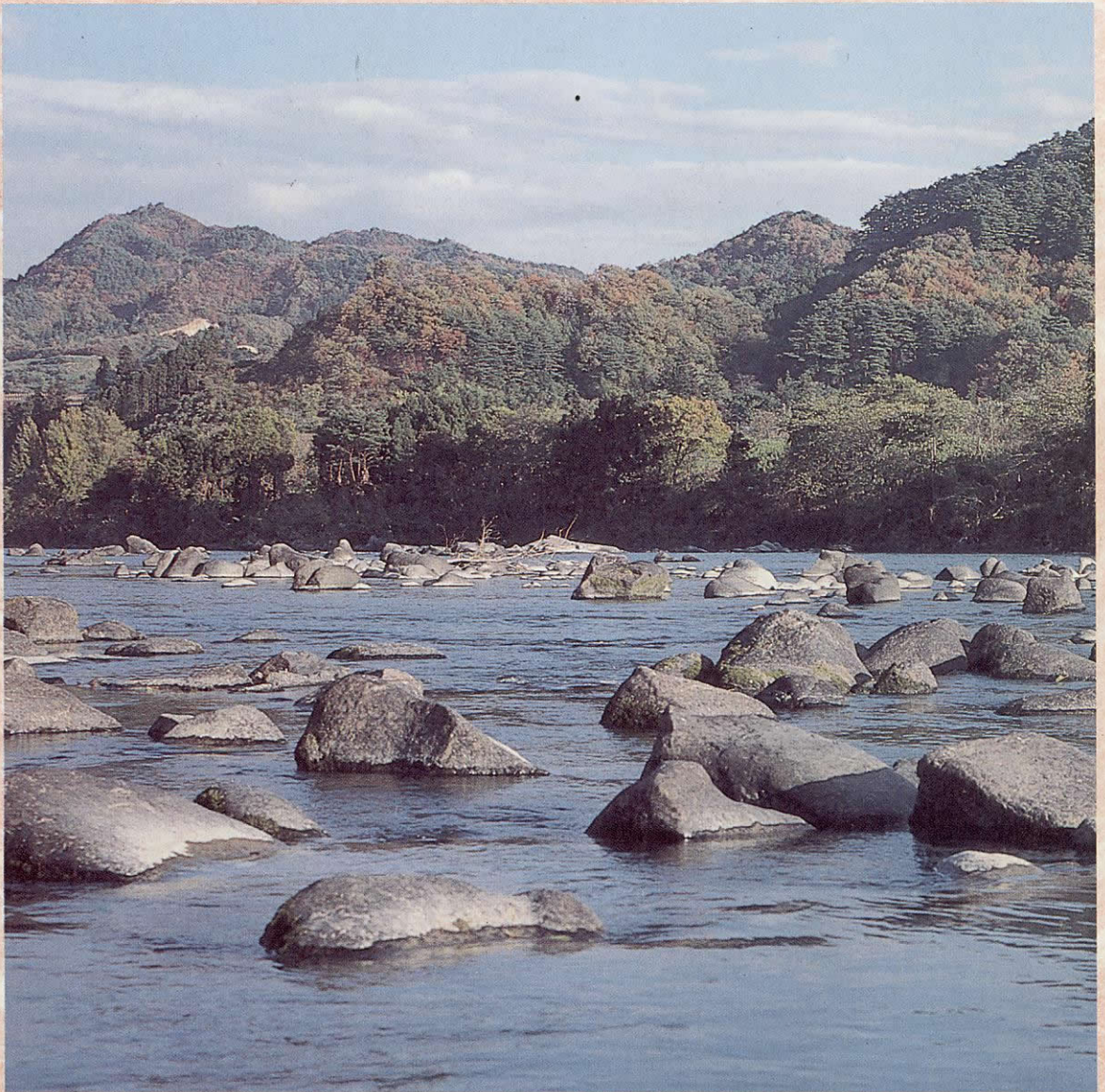


# みやぎの環境

創刊号



1990  
9

# 創刊にあたって

宮城県知事

本間俊太郎

私たちの宮城県は、豊かな自然と比較的穏やかな気候に恵まれた、まことに美しく住みやすい風土を持った県土であり、かつて、私たちは自然のなかに溶け込み、自然と調和しながら私たちの生活環境をつくってきました。しかし、近年の都市化の進展や生活様式の変化にともない、生活雑排水による川や湖の汚れ、自動車交通量の増大による大気の汚染、ゴミの排出量の増加や空き缶等の散乱、そして近隣の騒音など、生活に起因するさまざまな環境問題がおこってきています。また、地球の温暖化やフロンガスによるオゾン層の破壊など地球規模の環境問題も私たちの生活と無縁ではないことが明らかになってきました。

その一方で、私たちの身の回りの生活空間を潤いや安らぎのある快適なものにしたいという県民のニーズが高まってきていることも事実であります。

このようなさまざまな問題に対処し、そして、より美しい宮城県を次の世代に継承していくためには、県民一人ひとりが社会生活と環境とのかかわりについて理解を深め、豊かな自然や快適な環境を持つ価値を認識し、それに配慮した生活行動をすること、いいかえれば自然と調和した生活様式を追求することが、いま求められているのではないのでしょうか。

この小冊子が、皆様とともに環境について考え、情報交換をする場となるとともに、よりよい環境をめざして地域で実践活動を行なっている方々や、環境に優しい暮らしを実践してみようと考えている方々にとって、活動の一助となれば幸いです。



表紙：阿武隈川(丸森町)

## みやぎの環境

創刊号

特集●できることから始めよう

みんなで作るよりよい環境  
しぜん

樽水・五社山・袖山(外山) 柴崎 徹……………6

エコライフ 川の中の生物を観察しよう……………8

地球にやさしい商品……………9

INFORMATION

NEWS・環境伝言板……………10

本棚・環境情報センターから……………11

見る・聴く・ふれる

山元町歴史民俗資料館……………12

まちなみ 白石武家屋敷界限 柴崎 徹……………13

G A I A 「模伝子」宮城県保健環境部 須藤幸藏……………14

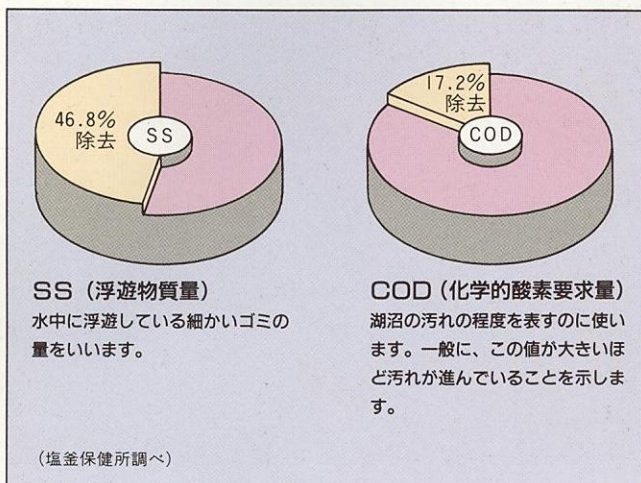
特集◎できることからはじめよう

# みんなで築くよりよい環境

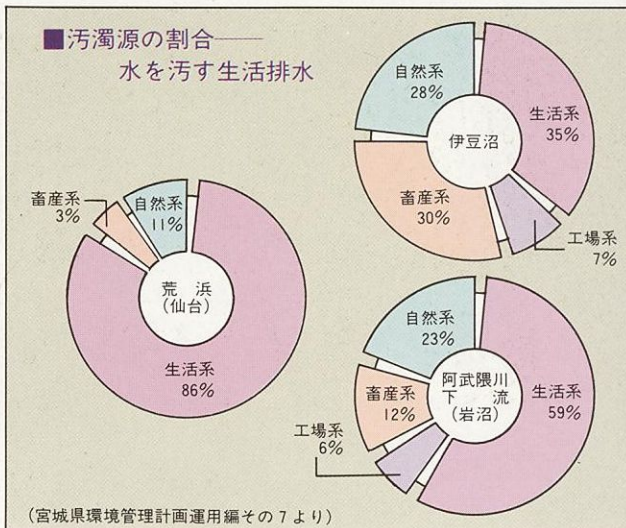
最近、地域の市民たちが自分たちの周りの環境をよりよくする活動に、積極的に参加するようになってきました。環境問題は幅広く、また多様ですが、その解決には市民自身による活動が大きな役割を担っています。

今回紹介する、県内各地で展開されているさまざまな環境保全のための活動の事例は、私たち一人ひとりの環境への配慮と行動が、地域の環境を守り、改善し、より快適な環境を創りだしていく大きな力となることを実証しています。

■家庭用ろ紙袋による効果



■汚濁源の割合——  
水を汚す生活排水



生活排水対策  
家庭排水は汚れている

川や湖沼、内海などの閉鎖性水域では、生活排水による水質の汚濁が問題になっています。

県が平成二年三月にまとめた「生活排水対策の現状」によると、県内の河川、湖沼、海域の水質汚濁の状況は、水質汚濁防止法や条例の施行により工場・事業場に対する排水規制が行われたことや、下水道の普及により、全般的には改善の傾向がみられるものの、まだ市街地を流れる一部の河川に汚濁の程度の高いつころがみられます。

その原因の一つとして家庭の台所、風呂場、洗濯などから出る排水(生活雑排水)があげられています。これらはトイレのし尿と異なり、ほとんど処理されなまま近くの河川や湖沼に放流されていることが多いからです。さらに、農漁村では生活排水による農業用水路の水質汚濁が深刻になりつつあることを同報告書は指摘しています。

生活排水の中心的対策は下水道の普及にありますが、県内の各家庭にいきわたるためには、相当の年月と莫大な費用を要します。それまで私達は手をこまねいているしか方法はないのでしょうか。加害者でもある私たち一人ひとりの小さな努力の積み重ねが、水質改善への大きな

力となり得るのです。

塩釜保健所は加瀬沼の水質調査の一環として、沼周辺の団地住民五九〇世帯の協力を得て、家庭用ろ紙袋による水質汚濁防止の効果を調査しました。

その結果、図にも示すように、かなりの効果があることがわかりました。団地住民のなかには既に使用している人もありましたが、この調査を機会に、自分たちの憩いの水辺を汚さないようにと、ろ紙袋の使用を続けています。

釜房湖のある町、川崎町と村田町は「みんなで守ろう、きれいな川と湖」をスローガンに、下水道計画区域以外の一般住宅を対象に合併浄化槽と雑排水簡易浄化施設の設置に補助金制度を取り入れ、積極的に推進しています。合併浄化槽とは、し尿だけでなく生活雑排水も併せて浄化する施設で、家庭から出る生活排水の大幅な水質改善が期待できるものです。

古川消費者主婦の会(西川きえ子会長)は「洗濯と生活雑排水」をテーマに会員の意識調査と学習会を開き、洗濯用洗剤の適量使用など、会員全員が水を汚さない工夫と配慮を実践しています。

水辺の再生  
憩いの空間にしよう

水質の保全といえば、いままでは汚濁した水



分別収集によってできた空き缶の山(石巻市)



鱒淵川ゲンジボタル生息地(東和町)

質を回復することに重点がおかれてきましたが、私たちの環境へのニーズは心に潤いをあたえる「快適さ」までを求めるようになってきています。

「ホッホッホタルこい。こっちの水は甘いぞ。」この夏も東和町鱒淵川ではゲンジボタルが乱舞。みる人を幻想の世界へといざなってくれました。

「自然が破壊され、経済優先の世の中で人間の生きる幸せに誇りと自信をもたせてくれるホタルを大切に守り育て、ホタルと人間が同居できる環境を作っていくのがこの町の私たちの責務」。と熱く語りられる「ホタル保存会」の小野寺会長。

昭和三〇年代、この地にも開田という開発の波が押しよせ、これと機を同じくするようにホタルが減少しはじめました。それを憂いた若者たちが「川をきれいにしよう。人もホタルも住みよい地域を再生しよう」と活動を開始しました。

会員の地道な活動が見事にホタルを蘇らせ、国の天然記念物の指定を受けるまでになりました。現在は「ホタル愛護少年団」も結成され、21世紀を担う子供たちと一緒に、地域ぐるみで大切な自然と生物を守ろうと活動が続けられています。

七月のホタル祭りには三〇〇〇人余の観賞客が山に囲まれた清流の里の風情にひとときの安らぎをおぼえられたことでしょう。

「ホタルサミット」。来年は当地で開かれます。

## 家庭ごみ処理

捨てればごみ、生かせば資源

家庭からでるごみの量は生活水準の向上、生活様式の変化から年々増え続け、ごみ処理場を増やすだけでは追いつきません。また、処理費用がかさむだけでなく、資源やエネルギーの浪費につながります。

そこで、ごみそのものの減量とともに資源化、有効利用による減量が必要です。このためには市民の協力が必要であり、さまざまな工夫と活動が展開されています。

多くの市町村では、あらかじめ燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみ、特殊ごみなどに分けて収集する分別収集を行っています。こうすることで、ごみの減量化が進み、また効率のよいごみ処理ができることとなります。

柴田町や岩出山町はじめ、いくつかの市町村では生ごみの家庭処理を推進して、収集ごみの減量と減量意識の高揚を図るために「生ごみ減量器」の購入に補助金制度をとりいれています。

小牛田町は市民による「過剰包装一掃運動」を展開し、ごみの減少・資源の節約について考えています。過剰包装問題は購買意欲をそそるためや高級感を与えるためのいわゆる過剰包装のほか、トレイ等の使い捨て、パック容器の氾濫にあります。



山元町中浜長寿会「投げ捨てごみ回収・美化運動」



松山町婦人会「もったいない市」

■宮城県のごみ排出量

年度	59	60	61	62	63
ごみの量					
一日一人当り排出量(キログラム)	701	698	752	872	804

(宮城県環境白書平成元年度版より)

「捨てればごみ・生かせば資源・ごみは私たちの財産」。各地でリサイクル運動が活発に行われています。

松山町婦人会(中幡恵美子会長)は、町民文化展に不用品交換会「もったいない市」を昭和五一年から毎年継続して開催しています。また、大和町鶴巣生活学校(鶴田しを運営委員長)によるリフォーム活動、志津川町十日町部落公民館による廃品の集団回収など数多くの活動例があります。

牛乳パック再利用運動も市民運動として大きなねりとなって広がっています。

今年五月、牛乳パック回収のための市民のネットワーク「紙パックの再利用を考える連絡会・宮城」(「パックネット宮城」樋口民子代表)が東北で初めて設立され、地域ぐるみの本格的な回収運動を始めました。現在、仙台市内を中心に十七カ所の回収ステーションがあり、誰でも回収パックを持ち込める仕組みになっています。近い将来には県内全域にステーションを開設したいとしています。

この運動は誰でも取り組める運動で、これを通して、使い捨て、ごみの減量化、リサイクル、森林資源の保護など自然と私たちの生活との関わりを考えていこう、エコロジカルなライフスタイルを目指そうというものです。

現在の回収率は〇・二%程にすぎませんが、市民運動の輪は全国組織「パック連」を結成するほどまでになっています。牛乳パック回収運動は「みやぎ生協」でも取

り組んでいます。

投げ捨てごみの回収・環境美化運動  
クリーンなふるさとをめざして

あなたは、この狭い日本で一年間にできる空き缶の量はどのくらいだと思いますか。何と一〇億個! 国民一人当り年間八〇個以上の缶入りジュースやビールなどを飲んでいる勘定になります。そして投げ捨てられた空き缶が全国いたる所に散乱して、まさに通り魔的汚染状況を呈しています。

市民による「530運動」、ごみ持ち帰り運動・美化清掃などが私たちの周辺で数々展開されています。

山元町中浜長寿会(斎藤聖雄会長)は「きれいにすればごみは捨てまい。」を合言葉に、海浜の清掃奉仕に取り組んでいます。今年も七月に実施して、二時間で四トンのごみを集めました。

川崎町は「美しい自然に恵まれた町・生涯をたくすかけがえのない町を保全する」をスローガンに柴田町に次いで、今年五月、町内に空き缶回収機「くうかん鳥」を設置しました。いまのところ一日七〇〇個もの回収があり、はやくも空き缶散乱防止とごみの減量化に効を奏し始めています。回収機は空き缶一個を投入するとシールが一枚でて、三〇枚で二〇円の商品券と交



鹿島台町駅前連合長寿会「花いっぱい運動」



空き缶回収機(川崎町)



古川消費者主婦の会

ナショナル・トラストとは国民の自主的な拠出金をもとに、歴史的な建造物や自然の風景地を買い取って保存し、これを損うことなく次世代へ引き継いでいこうとする運動です。

ナショナル・トラスト運動  
かけがえのない自然を未来に引き  
継いでいくために

換する実益も兼ねています。  
また、身のまわりが潤いと安らぎのある快適環境であってほしいという願いが「花いっぱい運動」となって各地で展開されています。  
鹿島台町駅前連合長寿会(榎富次会長)や矢本町の青年団・農業後継者たちは「まちを花でいっぱいにしてしよう。」を合言葉に駅のホームや町の花壇を四季折々に花でいっぱいにしていきます。  
この運動も地域の子供たち、町内会、老人クラブ等の人々のボランティア活動によるところが大きく、まちにも人の心にも大輪の花をいっぱい咲かせ続けているのです。

みどりと  
自然の保護運動  
すばらしい「みやぎ」の自然を守り  
育てるために

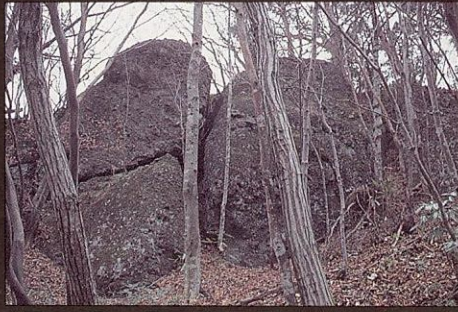
本県にはまだ例がみられませんが、和歌山県田辺市民による「天神崎土地買取り運動」や、「知床国立公園一〇〇平方メートル運動」等がよく知られています。

本県の自然環境は植物相がかなり豊富であるとともに野生鳥獣は三六〇余種にも及び、ほ乳類を初め、鳥類、両生類、昆虫類など多くの動物がみられ、豊かな自然に恵まれています。  
このようなすばらしい宮城の自然を後世に引き継ぐために、県は条例などを整備し保全に努めています。同時に県民にも自然に親しみ、自然を守り育て、森林や野生動物を愛護する精神が求められています。野生動物を保護することは美しい自然を守ることにつながり、ひいては人が安心して暮らすことのできる快適な環境をつくっていくことになるのです。  
各地の学校や職場のほか、「みどりの少年団」などによる緑化運動が活発に展開されています。  
また県では、「ふるさとの自然を考える」自然観察会や、野性鳥類の生態観察を主とした探鳥会を毎年各地で開催しており、多くの市民の方々が参加しています。

# 雑木林の小宇宙



ヤマツツジ群落



五社山を覆う高館安山岩の露岩



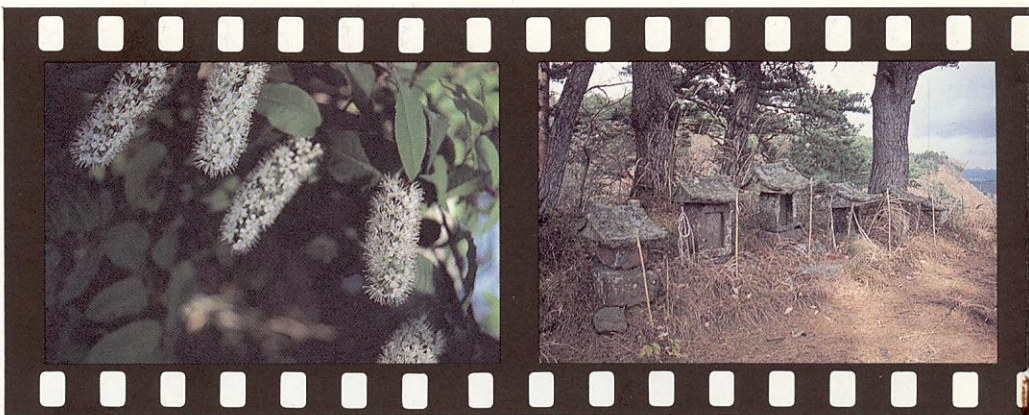
雑木林(コナラ・クリ林)の広がる五社山・油山の稜線(ニッ森)



○樽水・五社山・袖山(外山)

柴崎 徹

仙台・名取・岩沼各市の西側に連なる高館丘陵、そのなかで今も雑木林が広がり昔のままの里山的環境を色濃くとどめているのが、樽水から五社山・袖山の地域。標高三〇〇m前後、丘陵のなかで最



ウワミズザクラの花

五社山(295m)の山頂と石記



も高いところである。

気候的には暖温帯から冷温帯への推移帯、南限・北限の植物を含む豊富な植物相が地域の特徴である。稜線にはこんな低い山にかかわらずブナの樹なども見られる。また、昆虫類の宝庫、春の女神のヒメギフチョウや国蝶のオオムラサキ、トンボ類も多い。

五社山には樽水側と愛島側から遊歩道が整備されており、家族で気軽に小登山を楽しむことができる。石祀の並んだ山頂の岩の上に立つと、仙台平野を距てて真近かに太平洋が眺められる。

樽水・五社山・袖山には大都市の近郊とは思えないほどの豊かな自然が保たれており、気軽に訪れてほしい自然である。

● 交通案内 ●

名取市の中ノ沢地区を起点として、五社山・袖山(外山)に至る遊歩道「水と緑の観察路」が整備されている。五社山を経て袖山までは片道約四・七kmの行程。中ノ沢までは車で行くか、または仙台市営バス愛島公民館で下車し、そこから徒歩で四〇分。

# 川の中の生物を 観察しよう

水のなかにすんでいる生きものには、環境の変化に敏感で、少しでも川の水が汚れると、そこにすむことができなくなるものや、少々汚れていても耐えることができるものもいます。こうした水のなかにすむ生きものは、川の平均的な汚れ具合を示す目安となります。特に水生昆虫がその代表です。

あなたも水生生物を調べることで、身近な川の水の汚れ具合を自分の目で確かめてみませんか。



1. 流れの下流に網をかまえ、こぶし大から頭ぐらいの大きな石をそっと持ち上げる。



## 調べ方

## 準備するもの

目の細かい網やざる、白いバット  
ピンセット、ルーペ、バケツ、  
鑑など

2. 持ちあげた石は、そのまま水をはったバケツやバットに入れる。



3. 石を持ち上げたあとの川底を足でかきまぜ、流れてくる虫を網ですくう。



## 注意すること

- ① 一人では決して行かないこと。
- ② 急流や深みには入らないこと。  
(増水ときには近づくはならないこと。)
- ③ 川底や河原は、むやみに荒らさないこと。
- ④ 水辺にすむ生物は、もともともど  
しましよう。

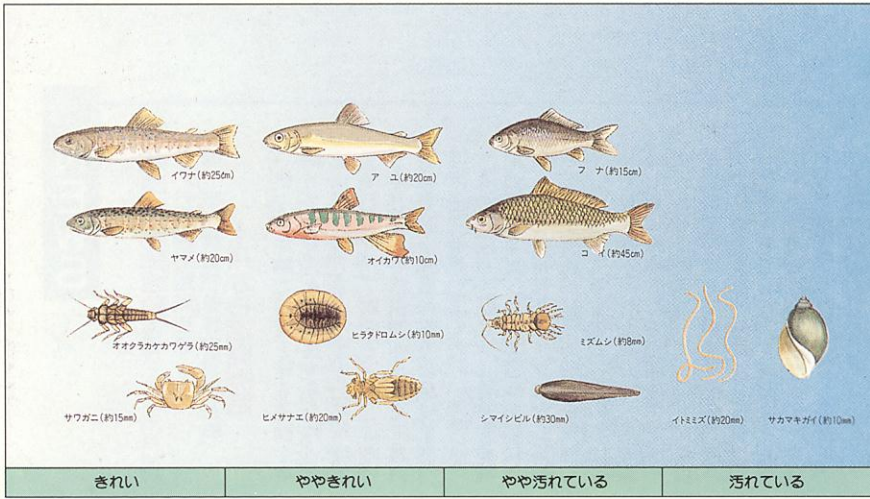
4. 石の表面についている虫や網に入った虫をピンセットで採取する。



5. 採取した虫をルーペなどを用いて観察し分類、確認する。



川や湖沼の汚れの指標となる水生生物



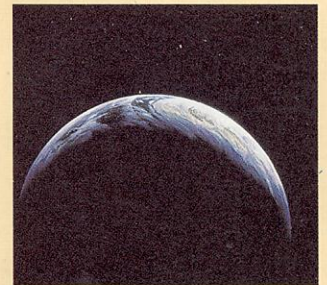
左の図を参考に判定してみてください。  
 あなたの調査した川の水の状況はどうだったでしょうか。  
 ※詳しくは「水生生物による水質の調査法（環境庁編）を参照して下さい。」

川の水の汚れ具合の判定

地球にやさしい商品



エコマークです。  
 どうぞ、よろしく。



エコマークとは「私たちの手で、地球を、環境を守ろう」という気持ちを表した、環境保全に役立つ商品につけられるシンボルマークです。環境（Environment）と地球（Earth）の頭文字「e」が人間の手の形となって、地球をやさしくつつみ込んでいるデザインになっています。（エコマークの「エコ」とは私たち人間や生物が生きているよい環境という意味です）

エコマーク事業は、財団法人日本環境協会が実施しているものです。この事業では、商品が消費する段階や廃棄する段階で環境保全に役立つ商品にマークをつけて、このような商品の使用を消費者に推奨しています。こうすることで環境問題に関する情報を提供し、環境保全型商

品を普及させ、消費生活による環境汚染の低減を図り、あわせて環境保全の意識の高揚をはかっています。平成一二年六月現在二二品目五三三商品にエコマークが付けられています。  
 ※なお、品目ごとの詳細は次号から順次掲載する予定です。

●エコマーク商品の対象品目は、現在次のとおりです。

特定フロンを使用しないスプレー製品 (人体に使用するものに限る)	廃木材再生品 (有害物質を含まないこと)
台所流し台水切り用三角コーナー (メッシュ等ができるだけ小さいもの)	廃プラスチック再生品 (100%廃プラスチック利用のこと)
台所流し台水切り用ストレーナー (メッシュ等ができるだけ小さいもの)	ステイオンタ缶
台所流し台水切り用紙袋	再生パルプ使用OA用紙
廃食用油吸収材	再生パルプ使用印刷用紙
生ごみコンポスト化機器	再生パルプ使用一般事務用品
環境に関する雑誌又は書籍 (再生紙を使用するものに限る)	再生パルプ使用包装用紙
100%古紙使用のトイレトペーパー	太陽熱利用給湯システム
リターナブルびん (回収システムが確立されていること)	セルローススポンジ
空びん回収ポスト (回収システムが確立されていること)	乳幼児用布製おむつ
廃食用油再生せっけん	使用済タイヤ再生品

## ●環境保全活動 アドバイザー

### 十月から活動開始

県では地域で環境を守る運動を展開している人々を支援するため、環境保全活動アドバイザー（略称環境アドバイザー）制度を定め、このほど十月からの活動開始に備えて県内各地の七十九名の方々に環境アドバイザーを委嘱しました。

この制度は、散乱ゴミの清掃や河川の浄化など、地域で環境問題に取り組んでいる市民グループに対し県や市町村が積極的にその活動を支援していくこととするもので、県内の仙台市を除く全市町村から一、二名の環境問題に精通した方を環境アドバイザーとして委嘱し、グループからの派遣依頼に応じて環境保全のための活動に必要な指導や助言を行なっていくこととするものです。環境アドバイザーの派遣対象は、地域住民でつくるグループであればよく、グループの規約などが定められていなくても構いません。

環境保全活動アドバイザー制度について、詳しくは市町村の環境担当窓口または最寄りの保健所環境公害課までお問い合わせください。

## ●日本環境教育学会が発足

身近な環境への関心と理解を深め、市民として住みよい環境を作る行動力をつけ、それを生涯にわたって育てていくことを目的とした日本環境

教育学会の創立大会が、平成二年五月十八日から二十日までの三日間、東京都小金井市の東京学芸大学教育学部で開かれました。

同学会は今後の事業として、年次大会の開催のほか学会誌及びニューレターの発行、シンポジウム・セミナー・講演会などの開催を予定しているとのことでした。

学会事務局は東京都小金井市貫野北町4-1-1東京学芸大学附属野外教育実習施設内（電話〇四二二一二五二一―一内線二九二五）となっています。

## ●今年も蔵王清掃登山に一五〇人が参加

昭和四十一年度以来、毎年恒例の行事となった蔵王清掃登山が、今年も六月十日、小学校二年の児童から七十八才のお年寄りまでの一般の応募者五十名と東北学生ワンダーフォーゲル連盟の学生約百名の参加を得て行なわれました。当日は、午前中はガスに見舞われ肌寒さを覚える生憎の空模様でしたが、午後からは格好の登山日和となり、県営蔵王レストハウスを中心として熊野岳山頂コースと蔵王ハイライン周辺コースの二班に分かれて、散乱している空き缶や空きビン、ビニールなどのゴミを拾い集めました。集まったゴミの量は用意した約一〇kg入りのゴミ袋で一八〇袋にも達しましたが、この登山を主催している蔵王をきれいにする会事務局によりますと、ゴミの量はここ数年横ばいという事です。蔵王は私たち宮城県民のシンボル、ゴミと思えば持ち帰って、いつも美しい蔵王でありつつづけるよう心掛けたいものです。

## 環境伝言板

### スタッドレスタイヤの

### モニターの募集

県では今冬モスタッドレスタイヤモニターを次の要領で募集します。スパイク粉じんのないクリーンな宮城の街づくりにおむけ、みなさんの協力をお願いします。

#### 【応募要領】

一 モニター募集期間 平成二年十一月一日から十二月二十日まで（申込み者多数のときは抽選となります）

二 募集人数 仙台市を除く県内全域で二〇〇〇人

三 モニターの条件 ①今年の秋以降にスタッドレスタイヤを4本購入する人で、②日常自動車を運転している人。③申込み者氏名とモニター料振込銀行口座名義が同じであること。④対象車両は自家用車に限ります。⑤原則として、昨冬までスパイクタイヤを使用しただ人。

#### 四 応募方法

①申込書は市町村のスパイクタイヤ対策担当課においてあります。タイヤの購入時に、購入した証明を受けてください。②申込書はタイヤ販売店または保健所のスパイクタイヤ対策担当課にもおいてあります。③申込書に必要な事項を記入のうえ、市町村に提出してください。（郵送可）

#### 五 アンケートの提出

平成三年二月下旬までにアンケートに対する回答を提出していただきます。

六 モニター料の支払い、モニター期

間終了後約一ヶ月後に九、〇〇〇円を振込みます。

七 その他、スタッドレスタイヤモニターについて不明な点がありましたら、市町村または最寄りの保健所のスパイクタイヤ対策担当課にお問い合わせください。

なお、仙台市でも百六十人のモニターを募集しますので、仙台市内にお住まいの方は仙台市交通対策課までお問い合わせください。

## 塩釜地域環境保全

### シンポジウム

県では、地域住民の環境保全思想の普及、啓発をはかり、地域に根ざした環境保全活動を展開していくことを目的に、松島湾の環境保全をテーマとしたシンポジウムを開催します。身近な問題から環境問題を考えてみませんか。

●日時 平成二年一〇月五日（金）午後一時●場所 ホテル大観荘（松島町）●基調講演 東北大学教授 須藤隆一先生●パネルディスカッション 松島湾の水と景観を考へる●入場は無料です。詳細は塩釜保健所環境公害課（TEL 〇二二一三六六〇―二二二）へお問い合わせ下さい。

## 第5回快適環境づくり

### シンポジウム

●日時 平成三年二月一日（金）午後一時から四時三〇分まで●場所 仙台市泉文化創造センター（イズミテイ2）小ホール●参加料 無料。どなたでも参加できます。●問い合わせ先 県保健環境部環境管理課企画指導係（電話二二二二六六三）

## 『地球環境キーワード事典』

最近、地球の環境問題に関する報道が目立って多くなっています。本書は、地球の環境問題をわかりやすく、活用しやすくという方針で環境庁が企画し、発行されたものです。

第一部のテーマ編では、地球の環境と人間活動との関係を人類の歴史的推移のなかで概観しながら地球が果たしてきた役割を解説し、その上で、いま地球の環境を悪化させている原因が、「人間活動の拡大とその内容の変化にある」と指摘しています。

また、九つの地球の環境問題を個別に取り上げながら、その原因、影響、対策さらに私たちのかかわりを、やさしい表現で紹介しています。

第二部の用語編では、地球の環境問題に関する用語等について解説されており、用語解説書としても便利にように配慮されています。

若干専門的と思われるところもありますが、地球環境問題に関心のある方は、ぜひ一読されることをお勧めします。

編集 環境庁長官官房総務課  
発行 中央法規出版

定価 一三〇〇円



## 環境情報センターから

環境と環境問題に関する知識の普及・啓発と、地域や事業所での環境保全活動の支援を目的として、県ではこのほど保健環境センター内に「宮城県環境情報センター」を設置しました。

環境情報センターでは、県内の環境の現況に関する資料のほか、環境

問題を扱った雑誌や書籍、ビデオソフト等を収集しており、どなたでも閲覧や貸出しを受けることができます。ですので、ぜひご利用ください。環境情報センターの利用時間は月曜日から金曜日までの午前九時から午後四時までとなっています。

## ビデオ・ライブラリー

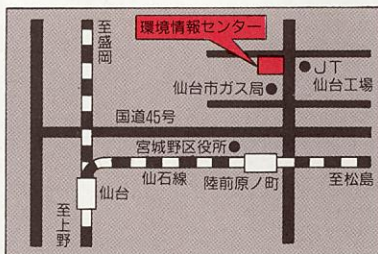
### 『地球汚染 —大気に異変が起きている—』

(財)日本環境協会 平成元年度製作

46億年の歴史の中で地球が育んできた大気、その大気に今、異変が起きている。異常気象、酸性雨、オゾン層の破壊、温暖化。こうした大気に関わる地球規模での環境問題の現状を、最新のデータと各国のリアルな映像を基に、克明に解説しています。

(VHSカラー 30分)

〒983 仙台市宮城野区幸町4-7-2  
宮城県保健環境センター1F  
宮城県環境情報センター  
TEL 022(257)7181 内線29



山元町歴史民俗資料館

「きのう」から「あした」への  
メッセージ

祖先がこの地に残した歴史的な文化遺産を明らかにし、次世代に継承しながら新しい文化を創造するための「学習の場」を目的として平成元年十一月一日開館しました。

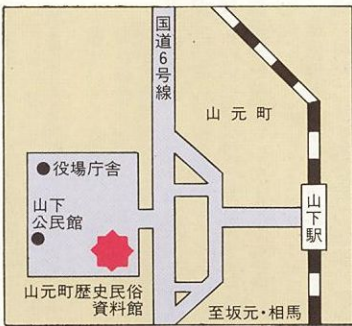
歴史・民俗・自然環境の三つのゾーンがあり、祖先の営みの数々を紹介しています。

モノが思い出を語りだす舞台。眠れるモノたちの物語には時代を読み、自分を読む鏡がかくされています。

その中でもちよつと異色なのが自然コーナー。当館のシンボルとなっている植物社会のしくみを図にした植生図やナデシコ・オミナエシなどの可憐な野の花のドライフラワー。トンボやチョウをメインとした昆虫標本。そして坂元川を中心とした川の魚たちなどすべて、郷土を愛する「山元町植生調査会」のメンバーが五年の歳月をかけて収集整理した文字どおり手

づくりの資料です。

山元の生きものたちのモノローグにじっくり耳をかたむけてみませんか。



交通▶ J日常磐線山下駅よりタクシーで7〜8分  
宮城交通浅生原バス停より徒歩5分

館内ご案内

開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで

休館日

月曜日（文化の日及びこどもの日、月曜日の場合はその翌日）

国民の祝日（文化の日及びこどもの日を除く）

1月1日から1月4日まで、及び12月28日から12月31日まで

観覧料

区分	観覧料の額（1人1回につき）			
	一般	高校生及びこれに準ずる者	小学生及び中学生	
常設展示	200円	150円	100円	70円 50円 30円
特別展示	1,000円以内で町長の定める額			



白石武家屋敷界限

# 歴史を映す堀の流れに

## しばし足をとめて

柴崎 徹

白石は水と緑の城下町である。  
白石城（益岡城）をかなめにして、北と東に街並が広がり、いままおそここに落ち着いたたたずまいを見せる。

白石川から引いた豊富な用水は、城を巡って堀を潤おし、やがては町全体を覆うべく斎川に流れ下る。  
白石は中世以降片倉氏に至るまで、延々と築きあげられてきた歴史の町なのである。

お城の北側・後小路や馬場のあたりには、往時の侍屋敷の面影がそのまま残されている。見事な屋敷林に囲まれた萱ぶきの家、たくさん錦鯉が群れる沢端川の清流、白石の豊かな水と緑に恵まれた静溢な武家屋敷には、すぐれた街並の原型が偲ばれる。



交通 … JR東北本線白石駅下車、  
徒歩十五分



# GAIA

ガイア

## 「模伝子」

宮城県保健環境部

須藤 幸藏

優れた情報は私たちの精神を触発し、目覚めさせ、新鮮な驚きを与え、何かをせずにはいられないように仕向ける。例えば芸術作品には音楽であれ絵画であれその表現様式を問わず私たちの魂を奥底から揺さぶる何かがある。悲嘆に沈む者には安らぎと喜びそして希望を与え、饒舌な心には沈黙を強いる。

優れた情報は私たちの感性に働きかけ、想像力を喚起する。結果として発信者と受け手に共通の認識が生じ、コミュニケーションが成立する。そこに新しい文化が生まれ、時間と空間を超えて伝播されていく。その不可思議な力を生物における遺伝子に譬えて「模伝子」と名付けた人がいる。

数十億年もの時間を生き続けてきた遺伝子の情報量、情報伝達力にはまさに驚くべきものがあるが、模伝子にも人間の生の証としての「意思」を伝え、多様な文化を育み、歴史を創って行く素晴らしい力がある。その力を信じて行くことが情報を発信する者の夢であろう。